



ぶどう特報 #6



2023年6月1日
JA 中野市園芸課
JA 中野市ぶどう部会

露地の開花は4月下旬からの天候不順により、平年並みの見込みです。梅雨期間は黒とう病・晩腐病等の主要病害感染拡大が懸念されます。概ね10日間隔で防除を進めてください。また、誘引作業を進め、薬液の通りのよい環境づくりに努めましょう。

年度	巨峰開花	シャイン開花	特記
平年	6/5	6/10	過去10年平均値 (H25~R4)
2022年 (R4)	6/10	6/15	生育停滞により開花平年より遅れる
2023年 (R5)	6/5頃	6/10頃	平年並みの見込み

品種名： _____
 散布日： _____月 _____日
 散布量： _____ℓ

品種名： _____
 散布日： _____月 _____日
 散布量： _____ℓ

【6月中旬の定期散布 *共通】

散布時期	落花直後
散布薬剤	水 100ℓ ⑧ コテツフロアブル 50 ml (60日前・2回) スイッチ顆粒水和剤 33 g (30日前・2回) ジマンダイセン水和剤 100 g (45日前・2回) *注意事項①参照 グリーンデイズ 等 100 g *葉面散布資材 *注意事項②参照
散布量	400ℓ/10a
適用病害虫	べと病、晩腐病、黒とう病、褐斑病、灰色カビ病、アザミウマ類、コガネムシ類 他
注意事項	① 【注意】ジマンダイセン・ゾーベックエニベル等の成分がマンゼブを含む農薬は、年間の使用回数が2回までとなっているため注意する。 ② 【注意】葉面散布剤の混用はブルーム溶脱の恐れがあるため、今回までの混用とする。 ③ 【サビ防止対策】落花状況（花冠の飛び等）を確認して散布する。 ④ 展着剤は、今回から第10回目の防除まで使用しない。（果粉溶脱防止の為）

品種名： _____
 散布日： _____月 _____日
 散布量： _____ℓ

品種名： _____
 散布日： _____月 _____日
 散布量： _____ℓ

【6月下旬の定期散布 *共通】

散布時期	落花10日後
散布薬剤	水 100ℓ フェニックスフロアブル 25 ml (14日前・2回) ⑧ アドマイヤー顆粒水和剤 10 g (21日前・2回) ゴーベックエニベル顆粒水和剤 133 g (45日前・2回) *注意事項①、②参照
散布量	400ℓ/10a
適用病害虫	べと病、晩腐病、アザミウマ類、コナカイガラムシ類、スカシバ類 他
注意事項	① 【農薬汚れ対策代替】 ゴーベックエニベル顆粒水和剤に代えてホライズンドライフロアブル 2,500倍(21日前、3回)を使用する。 ② 【注意】ジマンダイセン・ゾーベックエニベル等の成分がマンゼブを含む農薬は、年間の使用回数が2回までとなっているため注意する。

品種名： _____
 散布日： _____月 _____日
 散布量： _____ℓ

8月上旬に栽培日誌の配布があるまでは、ぶどう特報に散布日・散布量を記録し、保管してください。

裏面：梅雨時期に特に注意したい病害について記載しています。

梅雨時期に特に注意したい病害

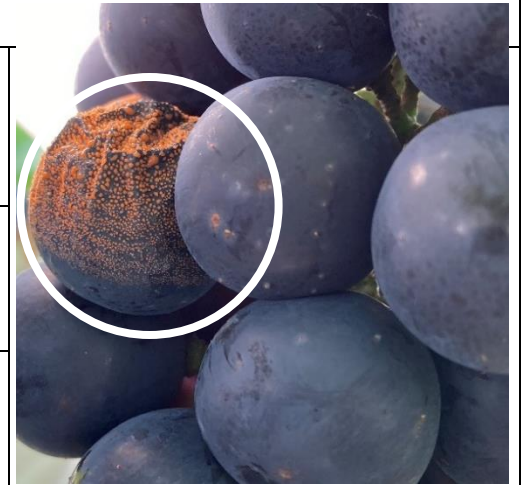
黒とう病

病斑の特徴	果粒：ほくろのような黒い円形（病斑部はやや凹む） 粒発生の場合、上部新梢にも発生している場合があるので注意する 葉：淡褐色～黒褐色の病斑ができ、しだいに穴が開く（鳥の目様） 枝：黒い楕円の中央部灰白色
発生場所	果粒・新梢（葉・枝）・卷ひげ 4～5月頃の降雨で病斑の上に胞子を多数つくり、雨によって飛散する 副梢や展葉したばかりの新梢など、柔らかい組織を好む
防除ポイント	降雨やかん水で伝染するので、梅雨時期の防除は10日間隔を目安に行う。降雨から2～3日後には発生がないか再確認をする。 感染箇所は切除し園地外へ持ち出す 定期散布後は速やかに袋掛け作業に入る



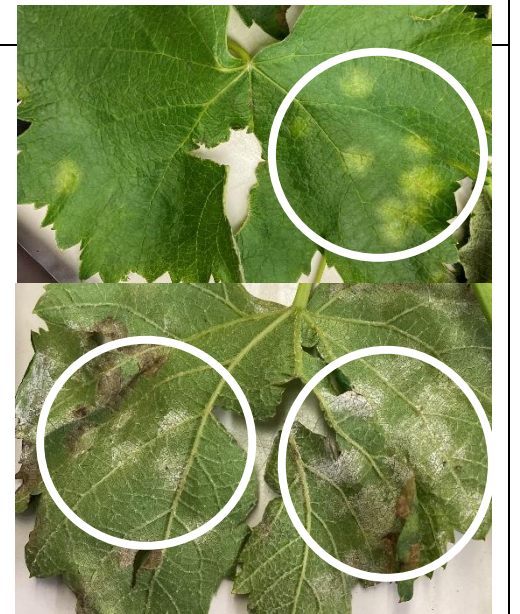
晩腐病

病斑の特徴	果粒：赤褐色で粘質の胞子の塊を生じ、やがて黒くミイラ化する。 結果母枝や卷ひげの組織内で越冬する（前年発生した園地は要注意）
発生場所	果粒・新梢（葉・枝）・卷ひげ 胞子形成6月中旬～7月中旬頃最盛期 この時期の降雨による伝染 10月頃（収穫期）まで出現
防除ポイント	発芽前と落花直後～袋掛け前が重要防除時期 農薬での防除の他に、卷ひげ や 収穫痕 をきれいに取り除く「耕種的防除」も併せて実施



べと病

病斑の特徴	葉：葉裏に白いカビが見られる 葉に激しく発病すると早期落葉を招き樹勢低下につながる 花穂：全体に粉をまぶしたような白いカビが見られる 幼果：果底部より鉛色に変色する
発生場所	葉・花穂・幼果 6月～7月に低温・多雨多湿で発生多（20℃～24℃）
防除ポイント	新梢が繁茂し、副梢発生が盛んになる梅雨時期後半が最大の感染期となる 降雨予報前を狙った防除や10日間隔の防除を心掛ける 園地は新梢管理をし、薬剤が通りやすく風通しの良い環境にする



灰色かび病

病斑の特徴	花穂：穂軸や花蕾の一部が褐変枯死し、花ぶるい症状となる 熟果：裂果部分に発生し、毛足の長い灰色のカビを生じる ：（冷蔵ぶどう）果粒果皮が淡褐色の円形状に広がり変色
発生場所	花穂・葉・幼果・熟果 低温・多湿状況で発生多 成熟期に降雨が多いと裂果に伴い発生増
防除ポイント	幼果では花冠や花かすが付着した部分等、傷口や死んだ組織に菌が繁殖しやすい。開花期が天候が悪く花冠が飛びにくい場合に発生が多くなる ⇒丁寧に取り除く 冷蔵ぶどうの出荷を予定している方は、落花30日の定期散布を必ず散布する（7月中旬～下旬のオンリーワンフロアブルが有効）



冷蔵ぶどうの灰色かび病 症状

特報#7：6/15付け発行予定。落花20日後の定期散布等記載予定。